

昭和の思い出

～我が人生のふるさと”昭和”への想い～



ことばの小箱 文集第11集

まえがき

令和五年のスピーチ大会では生後半世紀前後を過ごした昭和の思い出を熱く語って頂きました。戦後の物の無い時代、復興期、高度成長期、バブル経済期の話等々と話題が豊富でした。ここに文集第十一号として発行することになりました。

昨夏は酷暑の日が多く各地で年間平均気温の記録を更新するなど地球温暖化への対応が待ったなしの非常事態となってきました。そのような中、新型コロナウイルスは5類への移行となり、大幅に規制が緩和されてことばの小箱の年間行事もスケジュール通り開催できたことは皆様のご協力の賜物と深く感謝致します。

また三八年ぶりの阪神タイガースのリーグ優勝・日本シリーズ優勝と関西が沸き立ち、大谷翔平の大活躍、将棋界では藤井聡太の八冠達成、等々と話題が尽きない一年でした。一方世界では、ウクライナへのロシア軍侵攻戦争は膠着状態に入り、停戦の見込みが見えないまま、新たにイスラエルとハマスの戦争が勃発して解決の目途も立たない状態では戦禍による民間人の死者数ばかりが日毎に増加しています。我々の国では安全保障面では地域的に対立が厳しい環境に在り乍ら微妙なバランスの中で辛うじて平和を維持出来ています。

令和六年度も地域が安定して皆様がご健康で活発な活動ができるように願っています。

令和六年二月吉日

ことばの小箱 会長

目次 昭和の思い出

まえがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

千里ニュータウンの思い出・・・・・・・・・・

中学時代の思い出・・・・・・・・・・・・・・

昭和の大切な思い出・・・・・・・・・・

夏の北海道・ラッキーな食の出会い

チキンラーメンと電話の思い出

「昭和は遠くなりけり」に非ず

「昭和は遠くなりけり」

昭和のテロ・・・・・・・・・・・・・・・・

“どうした”働き盛り

ミニスカートとボータス

終戦直後の懐かしい思い出

私の名前・・・・・・・・・・・・・・・・

少年野球・・・・・・・・・・・・・・・・

昭和は遠くなりけり

幼き頃の思い出・・・・・・・・・・・・

卵の思い出・・・・・・・・・・・・

私の昭和・・・・・・・・・・・・・・・・

「親父の思い出」

千里に暮らした思い出

「コンピュータの歴史と共に」

私の青春・・・・・・・・・・・・・・・・

「昭和の思い出」激動の昭和

苦勞もしたけど楽しかった昭和の時代

心に残る大切な方達

昭和の岩手を巡る旅

私が子供だった頃

川柳大会・・・・・・・・・・・・

行事写真集・・・・・・・・・・・・

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・

千里ニュータウンの思い出

記憶に残る出来事は昭和三十九年の東京オリンピック、四十五年の万博です。

オリンピックはテレビで観戦、後の映画のみでしたがとても感激して 毎日テレビを見ていたものです。金メダルを取った女子バレーや体操のチャスラフスカなど思い出します。もう一つの万博ですがこれは千里の丘陵を造成して会場づくり、モノレールや新駅整備各パビリオンが出来上がるまでを比較的近くで見聞することができました。

私は昭和四十年から 阪急千里線の北千里駅前公社住宅五階に住んでいました、会場の造成地はダンプカーやトラックが行き交い、日に日に様子が変わっていき、沢山有った竹林も立ち入り自由で春には近所の人達とタケノコ狩りを楽しみました。

万博会場北口駅ができ我が家からは一駅乗ると会場へ行けました。それ故三月に始まった半年間の会期中 東京や福岡から甥姪 兄弟 叔父叔母などが次々万博見物に宿として来宅し、当時私が乳飲み子と二歳児を抱えていたので 福岡の姑は手伝いに会期前に来て十ヶ月間ほど我が家にずっと滞在していました。

三部屋の団地なので一回に二人のみ泊まってもらって、お客様の世話で大変忙しい日々でしたが、お客様のいない時は涼しくなる夕方から家族で何度か出掛けました。パビリオンの長い列にうんざりして、空いていると思つてパキスタン館に入りそのレストランで食べた珍しい奇妙な料理も忘れられません。昭和天皇皇后両陛下が千里ニュータウンを見物されて間近で拝見できたことも思い出します。

中学時代の思い出

縁あってことばの小箱に昨秋入会しました。

私には六人の兄弟と祖父母、両親、父は四才の時に復員して来てくれて、その記憶が頭に残っています。田舎の生活は、段々畑と裏山があり、茅葺の家で土間には大きなかまどが五つ、風呂は五右衛門風呂。手伝うため友達と落ち松葉拾いに裏山へよく行きました。

中学生ではバレー部に入りましたが、いつの頃からか、日曜日には村の西にあつた名門鳴尾ゴルフでキャディをしたことが思い出されます。学校に働く依頼があつたのでしよう。

ルールは全く知らないままに日曜日毎にゴルフ場に行き、大きなバックを肩にかついでお客様と一緒にコースを廻る、今はカートがありますが、あの頃は上流階級の接待ゴルフだったんですね。広々とした、きれいな芝生と緑の松並があり一番から十八番のコースを今も思い出す事があります。勉強するより働いていることが一日中で一番楽しかった。

その二十九年には、川西町、多田村と東谷村、黒川が合併し川西市が人口三万三千七百人の川西市が誕生。住宅も萩原台、緑台、向陽台、清和台、けやき坂、大和、日生ニュータウンが出来て、能勢電車も複線となり新しい町に住宅が広がり川西能勢口駅も路面から上に二階、三階と開発されたことで車の渋滞がなくなりました。

今現在では阪急百貨店、アステと周りにはマンションが立ち並び、昔の面影がなく令和5年には人口が十五万四千二百人と大きな町になりました。

昭和の大切な思い出

私は今までの人生のうちほぼ半分を昭和で過ごしました。もう遙か、遠くに霞んでおりますが、今までの人生の中で最も変化に富み、急階段を駆け登った感があります。

私の記憶の一番奥には終戦間近の情景がこま切れのように残っています。ある時、空襲警報が鳴りだし皆が三歳の私を捜し回ったが見つかからず大騒ぎ、やっと見つけれられた私は防空壕の隅にうずくまっていたとか。何度も聞かされた故か私の頭に映像として残っています。今も親のその時の心配が身に沁みます。

小学校入学時、文字表記が片仮名から平仮名に変わりました。部屋の壁に貼った平仮名表が目には浮かびます。小学校では虱退治のためDDTを頭に吹きかけられ、栄養補給として肝油を飲まされました。給食は楽しみの一つでした。

中学・高校とバレーボール部に所属、練習の明け暮れでした。大学を卒業後就職、会社に貢献することもなく、二年で退職、そして結婚と目まぐるしく月日が流れました。

昭和の中で最大の事は引越でした。六回ほど経験しましたが、結婚後の横浜への引越しの箱根越えは別世界へ行く感が強く抵抗がありました。しかし取り越し苦労、鎌倉も近く、十分楽しんできました。

昭和は遠くにけりですが、楽家ゆえか時がそうさせるのか、楽しい思い出ばかりです。いつからか階段を駆け登る機会も気力もなくなり平地をゆっくり歩いていきます。昭和の大切な思い出を褪せさせないよう、時々昭和の世に浸りたいと思っています。

夏の北海道・ラツキーな食の出会い

戦後の教育を受け、結婚・子育て・子供の教育も済み昭和は遠くにけりの感あり、思い起こすと夫も私も趣味が似ていたので、テニス・ゴルフ・旅行と楽しんで来た。

子供の成長につれ、連休ごとに家族で登山やキャンプなどし、夏休みには10日ほど使つて沖縄から北海道まで毎年マイカーやレンタカーで旅行していました。子供がテニスやゴルフが出来るようになると旅行の中に1日は組み込んで楽しみましたが、それぞれの反抗期には「1人残る」と言い出すことが1回ずつあり、その時は1人置いて出かけました。それ以後は子供もちゃっかり考えて資金面や旅先での珍しい物を食することが魅力だった様で、旅行の前日まで友達と遊び、家族旅行から帰ると翌日から又友達と遊ぶ、と言った計画を立てていました。大学生になっても参加していました。

旅行で1番印象に残っているのはやはり北海道旅行で、5〜6回に分けて1周したことです。最初は舞鶴からフェリーで翌朝早く小樽に着き、新鮮な甘海老を食べて美味しく大きいのにビックリ！登別・支笏洞爺湖から十勝方面へ、そして釧路湿原への途中、トイレ休憩のため道路沿いに花咲ガニの甲羅が並んでいる大きな店によると、その裏側に蟹のゆで場があり大きなザルに入ったタラバガニがゆであがってくるのを当分の間見とれていたが、我に返り買っていくことにする。1パイはハサミで食べやすく切ってもらい、1パイ

は姿のままクーラーボックスにいれ、途中ハサミを買って宿に着くと酒の肴にカニも食べて満足。“車で行く良さは、珍しいものに出くわす楽しみがあります。”

知床では温泉が流れる岩山のくさりをもって登った上に岩風呂があり、めずらしい経験をしました。歯舞・積丹島が目の前にあるのに外国とは残念！早く返してほしいものです。オホーツク海を右手に見て北へ進んでいくとホタテガイの加工場に偶然に出くわし、ホタテ貝を買って宿で調理してもらい食事をおいしくいただきました。函館では函館山から見た夜景は素晴らしく漁火が印象的でした。市場で新鮮なイカを手に入れました。余市では毛ガニが有名で加工場を探して買求め夕食にプラス。積丹の民宿ではウニをたらふくいただきました。子供たちはイガからウニを取り出すことをさせてもらって大喜び。ご飯の上にとっぷり載せてウニ井にして食べ、はじめての珍しい経験ができました。最北端の宗谷岬では樺太がはつきり見え、利尻・礼文島へはフェリーに車を乗せて渡り利尻富士を見ながら島を1周し、1夜作りの瓶入りウニを買って求め、美味しさは格別でした。もつともつともつと色々あると思いますが、本州では味わえない、手に入らないものばかり食べて、北海道の魅力は尽きません。

皆さんも機会があれば・・・是非お勧めです!!

チキンラーメンと電話の思い出

昭和の思い出として映画、音楽、ファミコンなど色々ありますが、その中で次の二つを挙げたいと思います。

一つ目は日清のチキンラーメン、皆さんご存じのように昭和三十三年に大阪府池田市で誕生した袋入りインスタントラーメン。お湯をかけて三分間待つと出来上がるという珍しさと、手軽さが受けて、当時の風呂代の倍以上高い三十五円という価格にもかかわらず、爆発的に売れた商品です。当時、私は小学五年生で、高い正規品を食べることは少なく、形が崩れた格安の物を多く食べていました。下宿時代は、鍋に麺、卵、もやしを入れて電気コンロで煮るようになって食べました。その時、煮る時間の長短、水の量で味を調節するなど、インスタントでも味が大きく変わることを経験しました。

大阪万博のあくる年、昭和四十六年にカップヌードルが発売されたのですが、スキー場でカップに入った不思議なものをフオークで食べている人を見たのがカップ麺との出会いです。値段はチキンラーメンと比べてかなり高かったです。即席めんはうどんやそばなど種類も増え、味も変わってきました。今でも時々食べるがありますが、それでも初期のチキンラーメンが素朴で、鶏がらの味が懐かしく一番好きです。

二つ目は公衆電話です。二十代の独身時代、十円玉を多く握りしめて、店の人に聞かれていますのはと気にしながら掛けた**赤電話**。それから電話ボックスで落ち着いて話ができるようになった、百円玉の投入できる**緑電話**、その後テレフォンカードの使える電話機など時代と共にその形態は大きく変化してきました。携帯電話を持ってからは公衆電話を使うことはほとんどなくなってしまうましたが。あの十円玉が落ちていく音、かけ終わった後の余韻、受話器の重さとフックに戻すときのあの感触と音、映画の一場面のようにとても懐かしいです。

この味と音が、特に懐かしい昭和の思い出です。



「昭和は遠くなりにはけり」に非ず

著名な俳人 中村草田男が詠んだ有名な句に ” 降る雪や明治は遠くなりにはけり ” と言うのがあります・・・草田男さんが昭和初期に、20〜30年前の己の子供の頃の雪遊びを懐かしんで歌った句との事なのですが、私に取って昭和とは、先日地区のジジババ会の俳句勉強会でも詠んだのですが ” 行く秋の昭和歌謡は不易なる ” って処ですか？ その心は、今年3月の地域ジジババ会演芸会でさる爺が謳った ” 遠き昭和の・・・ ” と言う歌、特に三番の出だしの部分、あの歌この歌あの夢この夢と言った歌詞の部分に共感を覚えました。当会のカラオケ仲間とよく行くカラオケボックスでは、この歌 ” 遠き昭和の・・・ ” を暫くは唸ることに・・・。

昭和の思い出と申しますと、己が餓鬼の頃、終戦後4〜5年？位に流行った歌が今も次々に頭に浮かび、その頃の記憶がありありと目に浮かんできます。歌とその頃の記憶はキツチリ繋がってますネ。極めて個人的な事で恐縮なるも、70数年もの大昔の事を申しあげます。私生まれは九州長崎は軍港の街佐世保から北西へ30分程、北松浦郡芳ノ浦と称するド田舎Ⅱ炭坑町でございますが（悲しいかな今はこの芳ノ浦と言う地名存在せず！）、小生がこの地で生まれ物心付いた頃（4〜5歳の頃）、家には酔っ払いがよく屯しておりました。特に正月は大変な騒ぎだったと記憶、正月料理を喰らってお酒が入り暫くすると歌ったり踊ったりりのドンちゃん騒ぎが夜中迄、その中で酔っ払いが喚いていた唄が今でも走馬灯の如くプレイバックします。

♪ あなたのリードで島田も揺れる〜チークダンスの悩ましさ〜乱れる裾も恥ずかし嬉しく芸者ワルツは思い出ワルツ・・・芸者ワルツ

♪ あなたのくれた帯留めのダルマの模様がちよいと気にかかる、さんざ遊んで転がして、あとであつさり潰す気か、ネえ〜トンコトンコ・・・トンコ節

♪ お酒飲むなお酒飲むな〜のご意見なれえ〜どよいよい、ちとやそつとご意見なんぞで酒やめられましようか、トコねーさん酒持って来い・・・ヤットン節

♪ おれは河原の枯れすすき、同じおまえも枯れすすき、どうせ二人はこの世では、花の咲かない枯れすすき・・・船頭小唄

と言った唄が次々と頭に浮かんできます。所謂お座敷艶歌ばかりで4〜5歳の餓鬼には似つかわしくない歌ばかり、口ずさんでいまずとお袋によく叱られました。されど昭和の戦後に流行った昭和歌謡、ド艶歌は節回しが良く歌詞も情緒・ストーリー性があつていいですね〜それに比べ、平成の歌はだらだらと変化の無い節回し、歌詞も訳の判らない意味不明言語の羅列、無味乾燥、無臭無役、最悪〜令和は更に酷い、と言う事で、私にとって”昭和は遠くなり”に非ず！ 思いは永久に昭和ド艶歌なり、吾はこれからも、生きている限りは、昭和ド艶歌熱中時代を全うする所存・・・



4〜5歳の餓鬼の頃

「昭和は遠くなり」

私は平成よりも、令和よりも、昭和と云う年号に馴染んでいます。先ず思い出すのは、もう体験者も少なくなつてきましたが第二次世界大戦です。戦争の体験と云いまして、小学校の高学年から中学校の一年生までの疎開生活です。大阪市内にありました家は焼失しました。疎開先は母の実家がある茨木市の山奥でした。

両親は大変苦労したと思いますが、父が公務員だった関係か戦争にはかり出されず、私達はそれほど苦労も、惨めな思いもしなかつたように思います。母の実家は農家で、祖父の時代は寒天の製造もしていました。寒天の製造が出来る程寒いところでした。冬の朝起きますとガラス窓の水滴が凍り雪の結晶、花、繁った葉のような美しい模様が出来ているのを見るのが楽しみで、今も疎開生活の一番の思い出になっています。トイレが母屋から離れていて、夜寒い冬は困りました。学校の先生もやはり疎開者で大学勤務をしておられた方もおられ、小学生、中学生には授業が面白くなかつたように思いました。

最近の新聞記事で八月十五日終戦記念日と私は認識していたのですが、第二次世界大戦で無条件降伏をしたので、終戦ではなくて、敗戦の日ではないかとの意見もありますが、日本はあの戦争を最後に、今後戦争をしないとの決意表明で終戦との表現になつたと云うことを知りました。

今も悲惨な戦争のニュースが次々と報道されますが、日本の終戦が永久に続く事を願い、穏やかに過ごせる日々感謝しています。

昭和のテロ

昭和19年生まれの私の思い出は日本の高度成長期の、働け々の時代にあったことです。

学校を卒業と同時に就職して1年半たった昭和44年年末のことです。職場が営業に変わって、顧客の造船所に通い詰めて2ヶ月目のことでした。資材部長から「エンジンを買おうから来てくれ」との連絡が入り喜んで出張すると、「うちが買うわけではないけど、船主が買うそうだ。」との話でがっかり。翌日すぐにメモを頼りに直接電話でアポイントを取り茨城県那珂湊に日帰り出張したのです。通されたのは大層立派なお家の20畳ほどのお座敷、暖房のない中、正座で待つこと約30分。やっと現れたのが、和服姿の初老の小柄な男、漁業会社の社長、小幡五郎さんでした。商談の駆け引きはさて置き、当日は社長の希望価格を聞いて退散。翌日会社の上司に了解を取って再度出張、目出度く私の初めての契約に至りました。その後起工式、進水式、竣工式、初出航と順調に進み会社の方とも親しくなりました。

そんなある日、事務長から「社長の経歴を知っているか」と聞かれ、「那珂湊漁業組合長で県会議員でしょう」と返答すると小さな声で「226事件の青年将校やった」と知らされて驚きました。数日後、図書館で調べてみると226事件にかかわった人では発見できず。昭和初期の事件を調べて昭和7年にあった血盟団事件の実行者と判明。

具体的には昭和7年3月5日三井財閥の総師團琢磨を銃で暗殺した菱沼五郎です。血盟団事件の詳細は別の機会に譲るとして、菱沼は戦後漁業会社を興して県会議員を8期務め、私が機会を持ったのは彼が57歳の時でした。名前は菱沼五郎から小幡五郎に代わっていました。この昭和初期の血盟団事件を起点として3ヶ月後の515事件、昭和10年の相沢事件、昭和11年の226事件と続いてゆきます。その後は皆様もご存じの通り軍部の力が強くなり、日本は昭和16年の太平洋戦争開戦へと向かっていったのです。昭和の政治的テロ事件は他に戦後の浅沼稻次郎社会党委員長暗殺事件など沢山あります。最近では安倍晋三首相の銃殺事件が記憶に新しいところですが、この事件は政治的なものではなく、単に個人的な逆恨みによる事件と私は考えています。

私26歳の時の体験ですが、認知症になる年齢の今になっても、その人に会った時の場面が鮮明に思い出されます。



“ どうした ” 働き盛り

昭和とは現在の日本にとってベースとなった時代であり、私にとっても人生の楽しいこと辛いことなどあらゆる経験をさせてくれた時代でもありました。

昭和30年代に大阪の製薬会社に就職し試験分析をする職場で上司、仲間にも恵まれて仕事に遊びに充実した暮らしをしていましたが、昭和40年後半ごろから国内の医療関連産業が急速に発展しわが社も医用機器部が新設されました。

私もその事業部の一員として配属され家族と共に東京営業所へ転勤しました。そして慢性腎不全患者さんの血液を浄化するのに使用する人工腎臓の血液透析器の販売促進を手がけることになりました。

私のテリトリーは東北の岩手、宮城、福島県や茨城県など広範囲の地域で当時血液透析が可能な病院は各県に数か所しかなく、又その治療を担当しているドクターと透析器のメーカーのむすびつきは強く後発のわが社では簡単には採用されない状況でした。

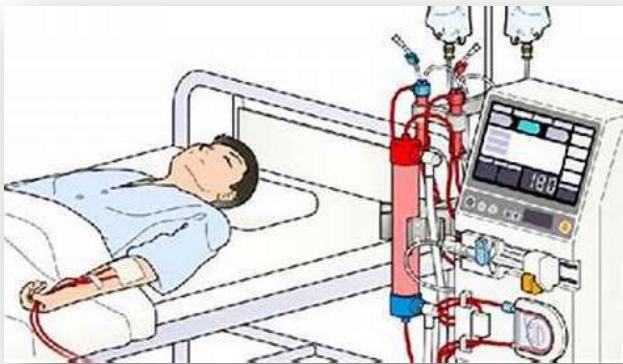
東北の長距離運転でのセールスは温暖な季節ではあまり苦になりませんが厳冬期の豪雪地帯である福島県の会津若松へ行ったときには地元の人に昼間の早い時間に峠を越えなければ通行止めになるといわれ営業活動もそこそこに帰った時もありました。

ほとんど毎週月曜から金曜まで車で広範囲な各地に出張していたわけですが、ある日家族寮を出発する際に小学低学年の息子に窓から身を乗り出して

「パパまた来てネ！」と大声で送り出してくれた時には大変ショックであり今でも耳に残っています。

血液透析器は我社でも生産開始しましたがその製造を得意とする化学繊維会社などに押され、市場価格が下落し採算悪化で生産中止となりました。

その後我々としては残念なことに会社の方針で医用機器部は解散することになり、私は大阪工場の元の職場にもどることができました。約7年の大都市である東京暮らしでしたが私にとっても家族にとってもいろいろな経験ができた昭和の苦い思い出であります。



ミニスカートとボーナス

団塊の世代に生まれとにかく同級生が多く、一クラス60数名の中学時代・木造校舎の薄暗い雨の日などは後ろの席は黒板に書かれた文字がはっきり見えません。やむなく先生の発する言葉を聞き漏らすまいとひたすらノートに書いて補っていました、男女同権・平等と意識が高く負けたくない思いは強かったようです。その中でも特に二つの出来事が印象深く残っています。

まず一つ目はミニスカート・イギリスのモデルでツイッギー（小枝ちゃん）が来日して以来誰もかれも足の太きなんて関係ありません。膝上10センチから20センチのミニスカートが全盛でした。（もちろんこのころは盗撮なんてなく心配無用でした）階段等では持っているバッグでスカートの後ろを上手に抑えて颯爽と駆け上がっていました。歩く時もなよなよたべたは合いません・大股で背筋を伸ばし闊歩、赤い靴がお気に入りによく履いていました。一人前になった解放感を味わえました。

もう一つが高度成長期に入り就職して初めてのボーナス！手渡しでもらう時代でしたのでドキドキワクワク、こっそりトイレの中で確認して「思わずヤッター」とにんまり弟に欲しがっていたギターをプレゼント、喜んだその笑顔を見て誇らしい気分がしたのを思い出します。ボーナス額は満足しましたが、仕事の量も半端なく忙しく、予約センターで代理店からの電話を受けていましたが、右と左二台の受話器を抱えくるくる回る予約シーートの回転台を追いかけて動き回っていました。

私の昭和は若きとともに右肩上がりの高度成長時代、今日よりは明日は必ず良くなるそう信じられる、そんな時代だったと思います。



終戦直後の懐かしい思い出

私の人生の中で昭和は、約半分を占めるが、歳とともに時間の実感が短くなり、自分では、八割位な気がする。平成・特に令和は「あつー」という間に過ぎた感がある。そんな昭和の時代で、その後とは異なる「昭和の思い出」は戦後の幼少期である。

終戦が二歳半なので直接の戦争記憶は殆どない。幼・小学生時代も生活環境は厳しかった（極度の食料不足に加え、テレビ・エアコン・冷蔵庫等あるはずも無く、ラジオ・薪練炭・扇風機・・・）が、周囲が皆そうであったので、不幸せ感は無かった。

当時は、大阪の片田舎の村にあり現代の八尾空港の近くであった。当時飛行場には、米軍が駐屯しており、進駐軍（我々はMPと呼んでいた。）がジープで村中を闊歩し、学校にも、よく来た。半年に一度位、米兵が来て全生徒のシラミ駆除の為、頭や背中にDOTを噴霧した。時には、キャラメルやチョコレートを配ってくれた。大阪市内へ出ると、かしこしに、傷痍軍人がハーモニカやギター等をひき、金を募っていた。

当時、家は商売をしていたが、店に米兵がよく遊びに来ており、風紀も必ずしも良くはなかった。「パンパン」と呼ばれた娼婦の話や、誰が置いていったのか「ヒロポン」という覚醒剤のアンブルもあった。米兵はよく食料もくれたが、一番戸惑ったのが「びん入りのマヨネーズ」で、その初めて口にする味に家族全員が「何や これ！」と発した。

学校では、よく授業中に映画会が行われたが、その中に「原爆の子」（乙羽信子主演）があり、原爆は怖いものだと、鮮烈に思った記憶がある。昭和二十九年には、ビキニ環礁で第五福竜丸が被爆し、久保山愛吉さんが死亡した時も「原爆は怖い」と思った。

当時はアメリカの占領下で、マッカーサーが絶大な権力を持ち、非軍事化や民主化を推進していた。今にして思えば「ソ連ではなく、アメリカ特にマッカーサーで良かった」。

父親などは神のごとく 崇拜しているように思えた。そして 昭和二十五年に朝鮮戦争が勃発した。自宅前の道路は、米軍の軍事車両が往行し、ただならぬ事が起きている事を肌で感じた。しかし。朝鮮における原爆の使用の可否をめくり、トルーマン大統領と対立したマッカーサーは解任された。「あの、マッカーサーを首に出来るアメリカとは、どんな国なんだろう」と思った。そして日本は独立し徐々に現在への路を歩み始める。

昭和の戦中末期に生まれた事は、非常にハッピーであったと思う。もし二〇年前後していれば、遙かに厳しい人生になったであろう。二〇年早ければ関東大震災や戦禍に巻き込まれたであろう。最悪は、徴兵・空襲・原爆で若くして人生を終えていたかも知れない。又もし二〇年遅ければ、①地球温暖化による異常気象で住みにくさや災害の深刻化②人口減少による国力の低下や中国・インド・南米・アフリカ諸国の台頭により、日本は、二等国どころか三等国にもなりかねず、生活環境レベルの低下③親の世代や今の私達を幸せにするために、残した負の遺産。中でも一兆円を超える国債の借金を、次の世代に負担を負わせるのは、心苦しい。又福島原発の廃炉作業等も次次世代まで持ち越す・・・等日本人のこれからの世代は、厳しくてシンドイ時代になることは必至！昭和前期後半に生まれて良かった。

私の名前

私は山口美祢市で農家の七人兄弟の四男として昭和十六年十一月十一日生まれ、名前は四男なのに何故か、「といち」といいます。小学生の頃「といち、といち」とからかわれ自分の名前が嫌いでした。その反面、名前に親しまれ多くの友達も出来ました。

私の生まれた昭和の時代は国策として「産めよ、増やせよ」のもと、どの家庭も兄弟が多かったです。その為に適当に名前を付けられたのではと思っていました。社会人になって父親に聞いたところ、十一月十一日【十一】それを登一と書いて、一番に登ってほしいとの思いで名前を付けたと言われて納得し、名前負けしないよう今迄頑張ってきました。

昭和のこの時代、小学校中学校は農家の農繁期、春と秋、二、三日の臨時休校があり農作業の手伝いをしました。田植えは定規で一株ずつ腰を曲げて植え、稲刈りは一株ずつカマで刈り取り束ね、乾燥、収穫とキツイ作業でした。稲刈りのカマで怪我をしたとき、兄が傷にヨモギの葉をすりこみ治療して医者に行くことはありませんでした。

近くに炭鉱があり、石炭を洗った水が流され川はいつも真っ黒でした。又、石灰石採掘場からは、煤煙が飛び散り近くの町の屋根はいつも白く染まっていました。社会問題にならず誰も何も言わなかったことを、子供心に不思議に思っていました。それは昭和三十五年池田内閣が所得倍増計画を発表、高度経済成長の為、公害が無視されたからです。

その後、以前から汚水で人に障害が出た水俣病を昭和四十三年に国が認め、公害が大きな社会問題となり、私のふるさとの川も屋根もきれいになりました。

以上、私の生まれて社会人になった頃の昭和の出来事でした。

最後に私は名前のように一番に登りつけませんでした。が、名前に誇りを持つてたことを親に感謝しています。



少年野球

昭和の終わりごろのお話です。

私の子供は、二つ違いの男の子が二人で、上の子が小学校三年生で、川西の少年野球チームに入部しました。同時に主人もコーチとして入部。このチームはほとんどがお父さんチームで母親は、監督やコーチに冷たいお茶やおにぎりのお世話が役目となっていました。当時は子供も多くて学年ごとに、毎週土曜日の午後と日曜日が練習日でした。私は働いていて、土曜日が半ドンの時代、仕事から帰るとすぐにグラウンドに向かい週末はいつも野球漬けの生活をしていました。

このチームにはコントロールのいいピッチャーで四番の子がいたので、とても強く大きな大会に何度も出場しました。私の子供はレフトの五番でしたが、近畿大会で決勝打を打ち、全国大会へ行くことが出来、市役所からはマイクロバスを出して頂きました。名古屋で全国大会があり、二回戦で敗退しましたがいい思い出となりました。

弟はピッチャーをしていたので毎回のように緊張して応援していました。その最たる試合は、サドンデスといって、延長を終了した時点で同点の場合、無死一塁二塁の状況からプレイを開始するやり方でハラハラドキドキでした。

現代は少子高齢化で少年野球も減少、スポーツも多種多様です。イースポーツのようなゲーム感覚のスポーツもありますが、親子が一つになって熱い思いをした当時が懐かしく思い出されます。



昭和は遠くなりにけり

先日のこと、理髪店で、担当の若い理容師から「僕は平成生まれだけど、昭和は戦争ばかりだったのですね・・・」と、話しかけられ昭和を改めて思いました。

理容師の言葉通り、私が生まれた翌年の昭和十二年には、盧溝橋事件から日中戦争が勃発しこれを機に日本は、太平洋戦争、第二次世界大戦に突入していったのです。当初は威勢のいいニュースが多く出ていましたが、私が小学二、三年年の頃には、米B 29爆撃機による本土空襲が日常頻発する状態になり、私達は四六時中不安一杯で過ごしておりました、その頃の状況の一端を述べます。

私たち家族は和歌山市内に住んでいました。敵から見れば和歌山市は大阪圏内に入っています。その上、近くに軍需工場がありましたので、敵は、そこを攻撃目標にしていたと思われます。朝、通学の途中に「空襲警報」のサイレンがなれば、家に引き返すか、近くの防空壕に飛び込むことになっていました。我が家の庭には、父が造った防空壕があり、何時でもサイレンが鳴ると家族全員で飛び込みます。しかし父は、徴用の為に山口県で勤務しており、残された母と子供四人で不安な毎日でした。

食事は殆ど壕の中で取り、主食は炊いた米ではなく炒り米でした。「米」のある間は幸いですが、後には大豆か何かの搾りかすなどが配給され、それを調理し食しました。

夜は灯火管制下であり、明かりは黒い布で覆うのが常となっていました。日中は煙を出さない、夜は明かりを出さない、それは、敵機に上空から攻撃されなためでした。

二十年八月、広島、長崎に原子爆弾が投下され敗戦となりました。日本は、列強のように侵略戦争を行っていたのです。

戦後我が国は平和憲法を堅持しております。昭和を振り返ると、前半の戦争、後半は戦後の復興、三十九年に東京オリンピック開催、東海道新幹線開通、四十年には名神高速道路の開通などと相俟って、高度経済成長期を経てバブル経済が崩壊して終わる激動の時代だったと言えましょう。

昭和の終わり六十四年、奇しくも六月に昭和の歌姫ともてはやされた美空ひばりが、七月には「楽壇の帝王」と称されたヘルヴェルト・フォン・カラヤンが死去しています。

俳人、中村草田男は

「降る雪や明治は遠くなりにけり」と

詠みましたが、私は

「昭和は遠くなりにけり」と

感じるこの頃です。



幼き頃の思い出

60数年前の思い出ですので、間違えて記憶していることがあると思います。夏休みになると母の里、広島県大崎上島木江町へ毎年のように帰っていました。

両親と4人の子供たち、そんなに裕福でなかった家庭でしたから、加古川から普通列車での移動でした（急行・準急などは走っていたと思いますが）。何時間もかかったように思います。まだ電化されていなく、電化になったのは小学6年生の頃で姫路まで学校から乗りに行きました。蒸気機関車でしたので、トンネルに入ると窓を下ろして、それでも煙が入り顔は煤で真っ黒になり、乗換駅糸崎での洗面所で顔を洗いました。当時は大きな駅には駅に水道と洗面所がありました。大阪駅にもありましたが何時のころかなくなりました。

各停ですからゆっくりと窓の外を眺めていました。岡山・倉敷あたりは畳表にする井草を育てており今は熊本に移っているようです。今は工場地帯に成っていますが、笠岡あたりの海岸線は入浜式塩田が沢山ありました。のんびりした列車の旅でした。

糸崎駅から呉線に乗り換え竹原駅に、少し離れた船着き場に歩いてゆき、巡行船に乗りました。大崎上島の一貫目船着き場にはリヤカーでおいさんが迎えに来ており子供たちはそれに乗って家に着きました。

山の上へ一本道を登って先祖の墓参りに行きました。海辺で海水浴をしたり、たこや巻き貝を取りお昼やおやつとして食べていました。6時半ごろ広場に集まりラジオ体操をしていると一便目の巡行船が通り、波に押されて浜にはイワシが打ち上がります。それを集めて鶏のえさにしていました。村から機帆船で、今治の唐子浜海水浴場に連れて行ってもりました。遠浅の浜でした。その日は甲子園では、高校野球の決勝戦が戦われており、愛媛県代表の西条高校が優勝した日でした（昭和34年）。

来島海峡は流れが速く潮流を見ながらの航行でかなり時間がかかり、帰ると盆踊りが始まっており、新盆の親族の方は位牌箱に位牌を入れてそれを背負い踊るそんな風習でした。

子どもたちに施餓鬼にお菓子などを配っておりました。島ですから夕方には風となり風が止まってしまします。夕涼みに海岸へ行き、石を投げると夜光虫がきらきらして美しい風景でした。今はもう見られないかもしれません。夏休みが終わると、自由研究で島のあちらこちらに行ったことを書いて提出しました。今は巡行船もなくなり高速船になっています。島の反対側にはカーフェリーが運航しており大変便利になっています。



卵の思い出

昭和28年 私が中学一年生の頃の事です。昭和28年は丁度70年も昔になります、今年が昭和98年ですから・・・。

卵は物価の優等生と言われ、鶏舎による大量生産方式が定着した昭和60年頃からつい最近まで10個200円前後で安定していましたが、昨今は300円以上です。卵は毎日の食事の必需品ですのでこの値上がりには驚いております。この卵のことから思い出した事です。中学生になりますと中間試験・期末試験があります。私は夜遅くまでよく勉強していたようです。その様子を見ていた母がある日手招きして私を台所へ呼びました。居間と台所の戸を閉めて水道の水をじゃーじゃー出してしながらお椀に割った卵を解きほぐして私に飲ませました。当時卵は滋養食だったので試験勉強に精を付けてやろうと思ったのでしよう。居間には父が居ましたので、卵を解きほぐしている音に気づかれないように戸を閉めて水道の水をじゃーじゃー出していたのでしよう。でも後に母が「お父さまは知っていたら嬉しいよ。でも知らんぷりしていたみたい」と申していましたので、ちゃんとバレていたようです。当時卵はご進物や病人見舞い用が多かった記憶です。当時の卵は現在の価格で10個2500円位になるそうです。もちろん地鶏卵です。

昭和23年丁度私が小学校に上がる年に神戸に越してきた私達5人家族の住まいは、居間の続きが段差のある土間になっていて、台所とお風呂場があり他に二部屋の狭い住まいでした。でも決して貧しい暮らしではなく私と妹は習字と日本舞踊を習っていた普通のサラリーマン家庭でした。父が土地を買って家を建てたのが昭和30年でした。皇太子殿下のご成婚式が昭和34年、翌35年皇太子ご夫妻は北多摩地区ひばり台団地の3LDKのお部屋を訪問されました。ベランダから手を振るお二人のご様子はメディアで幾度も報じられ、私達の記憶に残る事です。

終戦後の焦土からの復興に懸命だった日本は、土間などのないフラットで合理的な新しい生活スタイルを生み出す気概に満ちていた頃です。その先駆けとなった3LDKのキッチン冷蔵庫のドアポケットには卵入れケースが付いていただろうと想像します。

未来に向かって突き進んでいた頃と、物には不自由しない現在の『幸せ感』の違いをつくづく考えさせられます



地鶏

私の昭和

昭和時代は1926年(昭和元年)から1989年(昭和64年)までである。その間の私の昭和は昭和20年から昭和64年の44年間である。もの心がついてからの思い出は、「口内炎」「下駄の歯を、石けりで欠けさせ、叱られる」、そして幼稚園での淡い初恋らしきもの。彼女とは中学卒業まで続く。学校ではしばしば宿題を忘れる。いや故意でしなかった事も。そして、廊下に立たされる。給食でお腹が満たされる。

学生時代は色々のアルバイトで過ごす。そして社会人になる。残業が当たり前、皆何の疑問も持たず。私は疑問を持ち、外資へ転職。以来退職まで、残業は緊急事態を除きほぼなし。

そこに、文明の利器がもたらせる。先ずポケベル(S43)・FAX(S56)・パソコンの(S53)このパソコンの小型普及は1996年(H8)からである。そして、携帯電話(H2)である。

そう、この文明の利器の普及から、人々は忙しくなる。気持ち追われる様になる。

先ず仕事、ポケベルで、ある種の仕事では24時間勤務となる。FAXでは、月報等は郵送でよかったが、締め切り日が早くなる。先ずFAXにて本社に送る。パソコンになると、即オンラインでの報告。そしてその情報は世界へ流れる。大変気ぜわしくなる。

携帯電話の普及は最たるものである。情緒もなくなる。例えば連絡事項はラインで即ラインを見て下さいと、電話を受ける。何処に居ても

・手紙も書く事もほぼ無くなる。これもライン・パソコンでのやり取り。直ぐに結果がわかる。

手紙の、(ラブレター)では、返信が届くまででの気持ちのワクワク感、何とも言えない感じだった。

こう言った昭和の時代を懐かしく思うのは、私だけか・・・



「親父の思い出」

このテーマをいただいて、何を書こうか考えましたが、これと云ったテーマが見つかりません。私は昭和22年生まれですので、昭和を41年間生きたことになりました。戦後生まれですので、戦争の直接の思い出は在りません。昭和の思い出と云へば子供の頃、父の生活の中で、戦の名残を見た記憶があります。それは、ゲートル巻きです。朝、野良仕事に出かけ時に、幅6センチ程度の包帯状のものを足首からヒザ下まで巻くのです。

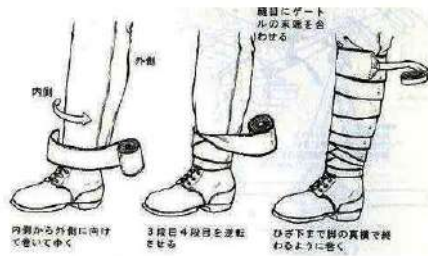
これを巻くと気持ちが悪くつとるのでしようね。丁寧にきれいに巻いていました。印象に残っています。父が戦争に駆り出されて何年か過ぎ、無事帰ってきましたが、軍隊生活のなごりは日常生活の中で残っていたと思います。また、技術も持って帰ってきたようです。家業は百姓です。水田に水を引くための水路の石垣の積み方とか、秋の取入れの時、発動機を畑まで持込み器用にそれを取り扱うとかです。

その頃の事ですが、個人が許可なく酒を醸造してはいけなかった。ですが、我家ではどぶろくを作っていました。米を蒸してコメ麴を作り、イースト菌を入れて一・二週間ほどでお酒になる。上手く造れなくて、酸っぱいお酒を飲んでいた時もありました。子どもでしたが私も味あわせてもらっていました。それと、まだ米の配給制度があったのでしようか。

自宅に韓国人の方が米を買い付けに度々来ていました。親しげな交流があったように思いました。鶏も飼っていましたね。ヒヨコを仕入れて育てます。100羽程度は居たと思

います。ご近所から買い付けに來られていました。親父の唯一の趣味は行者講に入り山伏の姿をして、寒行と称し門付けをしたり、大峰山や身延山に行ったりしていました。

親父の思い出となってしまうましたが何しろ現金収入を得る為いろんなことをしていました。それで育ててもらったんですね。遅いですが、今になってわかることが沢山あります。親に感謝です。



千里に暮らした思い出

高校時代の時同級生が千里ニュータウンに引越し遊びにいきました。そこは緑が多く近代的な佇まいの住宅地で素敵な街でした。大阪万博で月の石を見た事も良い思い出です。

そして私は49年に結婚をして千里に住みました。夫は毎日桃山台駅から通勤していました。メゾン桃山台というマンションです。そこは豊中市上新田という古くからある町でニュータウンには入っていない地域でした。竹藪と畑が広がっているのかな所です。そこで男子二人を育てました。子供会では近くの畑で苺狩りや芋ほりを楽しみ、そして水泳教室や少年野球などの送り迎えをしました。小学校は少し遠かったですが毎日元気に通っていました。少しすると周辺にマンションが続々と建っていき、すぐ近くに新しい小学校が出来て通学が楽になり友達も増えた様です。

ニュータウンに囲まれた所なので交通の便がよく、私もよく出かけました。千里中央にある図書館や公民館で手芸や花作りなどの教室、市民プールで泳いだり、近所のパン教室も楽しく続けました。近所のママ友さん達は日本中から来られており、お話を聞くのが楽しく勉強にもなりました。

我が家は平成四年に吹田市青山台に引越し、そして今は川西市に住んでいます。親しくしていた友達とは今でも千里中央で会いおしゃべりを楽しんでいます。

息子達も今はそれぞれ子育てに励んでいる様です。私達家族の楽しかった事を思い出してくれているといいのですが。



「コンピュータの歴史と共に」

昭和とは、1926年12月26日〜1989年1月7日までの63年間で近代国家の建国、繁栄の時代。そして、自分にとつての昭和とは、コンピュータの歴史と共に歩んできた時代と言える。社会人として初めての職場には「機械計算機と電子計算機」が並んだ、当時としては最先端の職場であった。30cm四方のパネルでプログラムを作り、機械計算機に命令を与え、日報など計算し、その後、第1世代と言える電子計算機（コンピュータ）で月単位や、年単位の大量データ処理をしていた。コンピュータの機種名は「IBM1401」と言われるアメリカ製のコンピュータで解説書、取扱説明書などのすべて英語版の為、その操作に大変苦労したことが懐かしい。

その後、数年で機械計算機は引退し、コンピュータは国産化が進み、日立、東芝、日本電気、と電気メーカが凌ぎを削っていた。会社のコンピュータも「NEAC2200」と日本電気製に変わったが使い方に大きな変化は無かった。但し、高価なコンピュータの為にコストパフォーマンスの為、24時間稼働が取り入れられ、事務部門にも拘わらず交代制で従事した。それから数年でソフトウェア業界に身を転じ、定年までコンピュータに関連する仕事を続けた為に、生涯コンピュータと共に歩む事になった。最初は、コンピュータとか、ソフトウェアと説明しても、新しい衣類の名前か？などと全く通じない時期であった。しかし、その後のコンピュータの歴史をたどれば、汎用型の大型コンピュータから、中型、小型コンピュータに進化し、オフィス用、制御用のコンピュータと用途別に分かれ、更に、更に、小型化が進み現在のパーソナルコンピュータの原型コンピュータや、ネットワークの登場により、オンラインの端末機として普及。更に、1995年「WINDOWS95」搭載により個人用コンピュータが、爆発的に浸透。

更に、パソコンと同じ機能を持ったスマホの出現で、世界と繋がるインターネットが普及し、今日のネットワーク社会が形成された。コンピュータと共に人生を歩んできた一人としてこの発展ぶりは驚嘆の一言に尽きる。この様に進化を遂げてきたネットワーク社会ではあるが、発信者名が匿名で使える便利さの弊害で、フェイクニュース、無責任投稿、誹謗・中傷が絶えない。ネットワーク全体の信用度にかかわっている。更に、AIの利用も、著作権侵害や、人間の創作能力への悪影響、犯罪利用など課題が多く、厳しい制約をつける必要ありと考える。

コンピュータを中心にした未来社会の課題は、量子コンピュータ等の出現によって、どう変革するのか？想像できないが、人間にとつて道具であると言う位置づけだけは、踏み外して欲しくない。その為には、現在の低俗なコンピュータリテラシーを高度化し、情報の真贋、その影響を見極める力を身につけた社会であって欲しいと願うばかりである。

私の青春

私の青春「昭和」は、「ポツンと田舎の一軒家」でスタートしました。昭和三十一年中学に入学。いよいよ、私の思春期が始動します。芥川賞を受賞した石原慎太郎の「太陽の季節」が日活で映画化が決まりました。逗子の湘南海岸で若大将だった弟・裕次郎は、ヨットマンとして悠躍、監督顔負けの手伝いをします。そんな男らしくて、足が長くてカッコいい男を放っておくはずがありません。次作「狂った果実」ではすでに俳優になり、「嵐を呼ぶ男」では大スターとなつてしまします。私は裕次郎の大ファンになつてしまいました。歌も大したもので、「俺はプロの歌手ではない」と出演を断つていたとか。因みに、カラオケに行ったら、今でも「粋な別れ」を熱唱します。

昭和三十三年、歌謡曲・映画・その他娯楽関連の興業が全盛時代を迎えます。ゴルフファンなら思い出すでしょうね。低音の魅力・フランク永井の「有楽町で逢いましょう」が空前の大ヒットをしました。この頃はまだ、ラジオが主体でした。学校から帰ったら、歌謡ヒットメロディーをよく聞いた。しかしこの頃から、日本の俳優の受け入れに変化が見られます。鼻筋の通った昔の男優、ふくよかな大和撫子の女優よりも、意外性のある俳優が選ばれるようになったのです。裕次郎も北原三枝も決して昔の美男・美女タイプではありません。

昭和三十三年高校入学。これからが青春真只中だ。「ポツンと田舎の」から福山までバスで二時間もかけて、映画を見に出かけた。その頃、タバコも吸い始めた。粋がついたものです。映画は小林旭・宍戸錠コンビが大ヒットしていました。映画に刺激され、

サイコロを七個買って来て、机に転がし、皮のコップで一個ずつ拾って振り、一本に立てるのです。そんな遊びに夢中になっていました。本業の人がやると本当に一本に立つのです。田舎の高校は長髪禁止でした。頭に傷があつて許されたヘアースタイルを裕次郎に似せて、「田舎の裕次郎」の誕生です。（昔は、黒髪が猛々、ドライヤーで煙が立っていた）、今はご存知、ハゲ頭。

「私の青春」の舞台は東京に移ります。あの山の中から、思いきつて大都会の東京の大学を選びました。東京大学ではありません。親はどれだけ心配したでしょう。ワザワザ親戚の人と同行してもらったのです。さすがは東京、「田舎の裕次郎」も「ソックリ裕次郎」が一杯いるではありませんか。若い人がワンサカ集まつて「イエーイエー」でした。お互いに牽制し合つて、吾こそは「そっくり裕次郎」と威張っていました。そして、いよいよ、テレビジョンの放映開始です。

昭和三十九年・二十歳・「東京オリンピック」。実際はそれどころではなかった。アルバイトが一杯あつて忙しかった。それでも何とか卒業でき、就職もした。

昭和四十二年、「私の青春」の舞台は大阪に移ります。「直ぐ呼び戻すから大阪で勉強をして来い」と社長に言われて二つ返事で来たものの、三年後にその社長が辞職の羽目に。

苦勞、苦勞!! 言葉に言い尽くせない「吾が青春」でした。そして、時は流れて、昭和四十五年、「大阪万博」。その後、半世紀以上も過ぎたことになる。思えば遠くへ来たもんだ。されど齢八十にして、いまだ惑っているではないか!! まだそれでもあと十年は生きていたいモンだが・・・はてさて。

「昭和の思い出・・・激動の昭和」

昭和の時代は大東亜戦争があり、敗戦により世の中が大きく変化した時代でした。まさに近代化を成し遂げた「明治維新」に匹敵する時代であったと思います。子供のころ大阪市内に住んでいて、当時の大阪は戦争の爪痕がところどころ残っており、住宅もバラックが多く、みんな貧しい生活をしていました。

戦後の歴史的出来事をまとめると①GHQの民主化政策②海外からの引き揚げ③朝鮮戦争の勃発と日本の戦争特需④サンフランシスコ講和条約締結⑤新安保条約の締結⑥日本の高度経済成長⑦オリンピックと新幹線⑧沖縄返還⑨大阪万博の成功⑩連合赤軍事件など学生運動頻発⑪昭和天皇の崩御などです。

それぞれの時代に思い出があります。岸信介総理の新安保条約改定の時に反対のデモに参加しました。岸総理はアメリカと片務的安全保障条約を対等な条約に改訂しようとしたのであり、今思えば自分の考えがまちがっていました。大学紛争の時は大学がバリケードで封鎖されたためにゼミの先生の自宅で勉強したこともあります。結局、一年休校のため卒業に五年かかりました。安田講堂事件、連合赤軍事件などのテレビ中継を見ました。結婚前に海外を見たいと思いヨーロッパ旅行（10日間）に行きました。イタリヤ、フランス、イギリス、スイスなどです。1ドル360円時代で、家が貧しかったので銀行ローンで行きました。

会社時代は終身雇用、年功序列の時代でした。職場は家族的でみんなと一緒に毎年旅行に行ったりしました。秋には運動会もありました。春闘で毎年給料が大きく上がりました。

その代わり物価（特に不動産）も大きくアップしました。残業もよくして、その頃、日本人は働き過ぎで「エコノミックアニマル」と言われ、この頃の日本はGDPでアメリカに次いで世界第二位となり、日本経済、経営が「JAPAN AS NO.1」と言って絶賛されました。前回の大阪万博の時はめずらしく千里丘に何回も見に行きました。アメリカ館では「月の石」が展示されていました。

事件としては「御巢鷹山」の日航機墜落事故で同僚が亡くなられました。仕事上の事故のため社葬となり。亡くなられた方と家も近かったので葬儀の手伝いをしました。その後、会社では出張に飛行機使用禁止となりました。

若い時の楽しみは映画でした。邦画では石原裕次郎、小林旭、吉永小百合の映画をよく見に行きました。洋画ではジョン・ウェイン、カーク・ダグラスなどの西部劇、チャールトン・ヘストンなどの歴史スペクタクルです。その後、テレビの時代となり力道山のプロレス中継などに熱中しました。会社の仕事を終えてから同僚と毎日の様に麻雀とか飲み会をしました。家庭は家内にまかせつきりで、今だにあの時のことを、家内から苦情を言われています。ゴルフコンペも盛んでした。娯楽も映画からテレビ、スマホ（ゲーム、音楽）と変わっていきました。みんな毎日、目が輝いていました。

昭和の時代は苦労もあつたが、すべてのものが大きく成長しており（株価も最高値を更新）、みんな夢があつて、良き時代であつたと思います。何事も成長期にあることはいいことです。まさに青春時代でした。今日あるのは家族と会社、先輩、周囲の人たちのおかげです。全ての方に感謝です。

苦勞もしたけど楽しかった昭和の時代

昭和は六十四年と長く、我々の年代は大半をこの時代に過ごした。その思い出となる色々あるが、その一つが登山である。今来し方を振りかえり、学生時代、仕事、各地での生活などを想起するとき、我々は日本という国が戦後の復興期を経てダイナミックに変化、成長した時代に生き、それは平和で幸せな時代であったと思う。そんな時代にあつて仲間と行動を共にし、助け合い、よく話し合った登山は現在にいたるまで私のバックボーンのようなものである。

今から六十年前前の登山は食糧、装備、情報手段など今とは比べようがないほど貧弱だったが、同じ釜の「飯」を食べ、焚火を囲み、同じテントで寝る・・・いわば寝食共にしたことは何物にも変え難い私のよき思い出となっている。今でも忘れられないのはある年の三月、仲間三人で白馬蓮華岳から蓮華温泉までスキーで下りるとき、ルートを間違えて日暮れとなり雪中にビバーク（露営）したことである。我々は準備もしており、なんともなく一夜を過ごし、翌日平気な顔で下山したが、温泉では下山して来ないから警察に連絡、ちよつとした騒ぎになっていたようである。

その当時の岳友も今や傘寿を迎えている。そのうちの何人かは今も山のレベルは大幅にダウンしたものの体力に合った軽登山を二か月に一回程度楽しんでいる。当日のお世話は輪番制で年に一回ぐらい回ってくる。そして山のうまい空気を味わい、心地よい汗をかいた後は地元の温泉につきり、少々のお酒と尽きることのない懐旧談が楽しみである。これからも元気な内は続けたいと思っている。

「目と足と達者なうちは山に行き、古き仲間といにしえ語る・・・」



心に残る大切な方達

私の昭和時代を言うなら生まれまして四十代の半ばまでの人生の半分近くを占め、あまりに長期間で焦点が絞れない。幼児から学生時代、結婚後の子育て期を通して大病や事故、災害にも合わず、家族五人健勝で幸せに暮らせたことは、何より有難く感謝の思いに尽きる思い出せば次々ときりが無いが、やはり心に残るのは大切な人との出会いです。

娘と親子二代わたって五十年近く、公私共にお世話になった恩師。大学時代の斎藤秀雄先生の素晴らしい講義。学生、教師、母親とそれぞれの日々と共に語り悩み励まし、明日を夢見た友人 先輩。もう半数以上 彼岸の人になられたが、その時々感動と悦びは、決して消え去ることはなく、今も私の心の支えです。

又、私の昭和時代は、とても活動的で多忙な日々でした。三人の子育て、仕事、家事 自分の事と 日々、目まぐるしく過ぎてゆきました。今も記憶にあるのは、息子達のボーイスカウトのデンダット、デンマザー担当時、野球試合中に、義母の危篤の報ありで急遽駆け付け、続いて葬儀、直後に結婚式で頼まれ仲人役を務めて。そんな時もありました。しみじみ振り返ると、様々な処で、本当に沢山の方々にお世話になってきたと思います。皆さん、どなたも、共通した良識を持ち、お互いに信頼感と優しさに満ちていました。ほんわかと、温かく通い合うものがありました。昭和、平成、令和時代と、時は流れ、高齢になった今、この急速に変化する世情には、とても付いていきません。あーあ、昭和は、楽しい良き時代でした。

昭和の岩手を巡る旅

岩手はまだすべて行ってはいない。

東北新幹線に乗って、宮沢賢治、柳田國男、石川啄木、芭蕉、阿弓流為「あてるい」を巡る旅を試みる行程だ。

JR松川駅を降り、賢治が農業の理想を実現するために尽くした東北砕石工場、双黒堂文庫を訪れてみる。賢治をしのぶのによい場所だ。大船渡図書館により「チェロと宮沢賢治」という本を見つけて読んでみようか。

次は遠野駅。柳田國男の「遠野物語」が生まれた駅だ。北上川の土手に、石川啄木親子の歌碑がある。新花巻下車、磐井川の二松庵跡で芭蕉が「奥の細道」の旅で名句を詠んだ。阿弓流為「あてるい」は、平安時代の北の英雄、蝦夷の軍事指導者で、進化した朝廷軍を撃退したが坂上田村麻呂に敗れ京で処刑された。「水沢あてるい館」を訪問し、古代東北の兵乱を覗き見たいものだ。

花巻に向かう電車で宮寄川鉄橋を渡る。壊れかけた橋脚部は賢治の「銀河鉄道の夜」の発想のもとになったといわれる。盛岡駅に着き「もりおか啄木賢治青春館」を見学してみたい。

賢治は盛岡商業農村学校に在籍し、現岩手大学に賢治の卒業論文や絵の展示があるようだ。賢治は山野を歩き、生き物や鉱石、風、雲、虹、星、との関わりの中に、我を忘れて没入する。自然との交感が賢治の文章の活力になったといわれる。

「岩手を巡る旅」で賢治たちとその作品の魅力を感じることが出来るだろうかと思いつながら昭和へタイムスリップしてみました。



私が子供だった頃

“昭和”は長く戦前、戦中、戦後では思想や生活が激変した時代だと思えます。戦後の物の無い時代に子供だった私には、何故か多くたくさんの楽しかった思い出が廻るのは何故でしょう。日々の新しい興味ある事が存在していたのでしよう。

近くに母の実家があり、大人達に接する機会でも新しい事も学びました。ある時、蓄音器やレコードが置いてある小さな部屋で、ヒステリーを起こし、レコードや本をケチらし、大声で泣いていました。原因は覚えてないのです。その時通りがかった祖父が、「粹じゃないよ。粹に生きろよ！お洋さん」と言っけて散らばった物を、さっさと片づけて行ってしまいました。子供の私には初めて聞いた言葉でした。“粹”ってどういう事、私の心に強く引っかかりました。

今でも粹に生きるとはどういう事、と思う時があります。辞書には、あか抜けし、さっぱりとした気立、人情の機微に通じ、物わかりがよい、趣味が良い、混じりけがない等々それは凡人には無理な事、感情的な私にはなかなか難しい、祖父の思い出と共に蘇る私の大切な言葉であり、そう在りたいと思っっています。

「過ぎた思い出って楽しいね！」 チャーリーブラウン

「どうして人生で、なんでも難しいのかな」 リラン

ピーナッツより

令和五年度 六月例会俳句大会（六月十二日）
兼題 「葉桜」 または自由 会員各位 二句まで

第五回目の句会には、高槻市在住『未央』『家』同人、六句集『子先生をお迎えて御指導を戴きました。兼題の「葉桜」は、投句の四十八句中三十四句に採用されました。講師による講評では、各投句それぞれに講評がなされ、作者との質疑応答が盛んになされました。特に表現方法の工夫などが指導の対象となりました。次いで互選句と講師推薦句の表彰が、会長により行われました。

◎ 互選特選 『葉桜の川面を泳ぐ鯉のぼり』

◎ 互選佳作 『葉桜やいきおい増して見えぬ空』

◎ 講師特選 『葉桜やあの人名前なんだっけ』

◎ 講師佳作 『初物を添えて食卓夏に入る』

◎ 講師佳作 『葉桜や孫に手渡す愛読書』

◎ 講師佳作 『老妻とふるさと偲ぶ粽かな』

俳句清記表

兼題『葉桜』又は自由 清記者

- 1 葉桜に秘めたる明日の息吹かな
- 2 風かおる芽ぶく青紅葉軒先に
- 3 花筵大谷話題で盛り上がり
- 4 もう一度見る機会なく葉桜に
- ◎ 5 葉桜の川面を泳ぐ鯉のぼり
- ◎ 6 葉桜や孫に手渡す愛読書
- 7 すがすがし散りしあとにも葉桜の
- 8 向かい風先を急げと葉桜よ
- 9 風に舞う青葉桜と鯉のぼり
- 10 葉桜の秋の色づき楽しみに
- 11 雨の日もそぞろ歩きのかたつむり
- 12 老妻とふるさと偲ぶ粽かな
- ◎ 13 葉桜や早遠ざかるランドセル
- 14 草餅や幼き頃の田んぼ道
- 15 みどりなす葉桜舞彩（まい）て夏来たる

◎ 17 16

晴天や片羽つくるふ夏燕
葉桜やあの人名前なんだっけ

人生の葉桜過ぎて夢を見る
葉桜や棋譜をならべてひもすがら
都会より葉桜の頃便りあり

葉桜の揺れるまにまに小さき実
葉桜や古い花見せて散りし夢

散歩道二羽のかもめに癒される
葉桜となりて寂しき我がごころ

戦国に桔梗の似合う武将散り
葉桜や次の開花が待ちどうし

◎ 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16

葉桜やいきおい増して見えぬ空

旅立たん故郷（ふるさと）の駅葉桜や
葉桜やそぞろ歩きの散歩道

腕組みて歩む二人の葉桜路
そよ風に揺れてきらめく葉桜よ

葉桜にやる気回復ウオーキング
そら豆のさや逞（たくまし）く育ちけり

◎

葉桜や山の息吹きおぼえたり
桜散り物悲しげな葉桜よ

葉桜は混雑知らず一人見る
病癒へはや葉桜となりにけり

兵（つわもの）の夢を残して葉桜かな
葉桜に忘れた帽子届（とどけ）らる

初物を添えて食卓夏に入る
目にしみる若葉照り映え峠みち

葉桜に健幸念じくる年も
ふと想ふ葉桜並木水の音

そよ風に水面に映える青葉かな
コロナ開け感謝を込めて散る桜

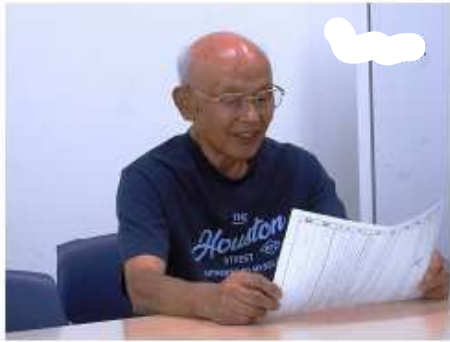
思い出す今この時に葉桜で
伊予の孫太鼓叩いて山車の上

美しい宴の後の葉桜よ



スピーチ大会 R5年9月11日





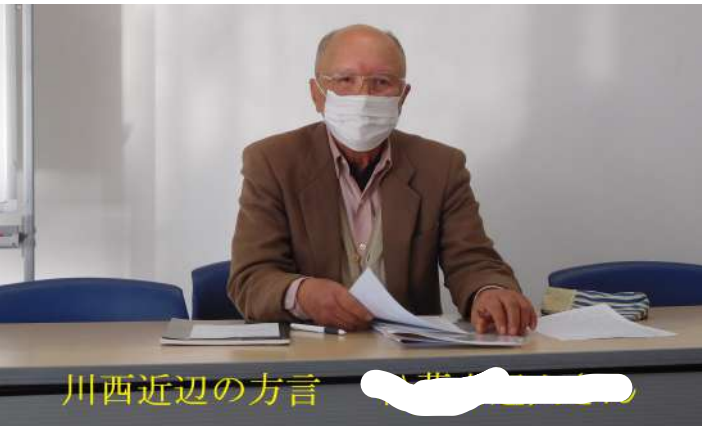
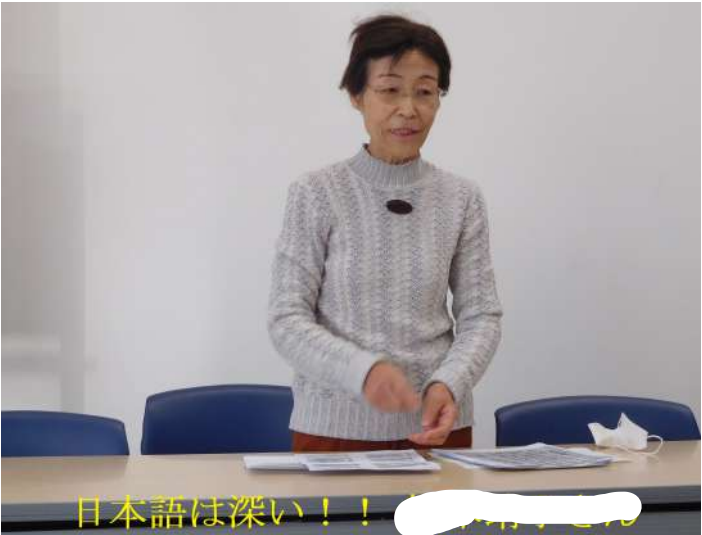


館外学習 R5年10月6日



館外学習 歴史文学博物館 (大阪青山大学) R5.10.6





③ 2024年1月15日



太平洋戦争末期、日本軍は沖縄を死守するため、各地の飛行場から特別攻撃隊を派遣させる。陸軍最大の特攻基地となった鹿児島県の知覧飛行場（川辺郡知覧町、現・南九州市）からは終戦までに振武隊の493名の青年たちが飛び立った。かつて大刀洗飛行学校知覧教育隊で飛行訓練を受けていた坂東少尉、陸軍飛行兵から母親のように慕われていた鳥濱トメとその娘礼子などの視点から、特攻隊員となった青年たちを描く。

映画鑑賞後の感想・自由討論会（毎回多様な発言交錯！！）



映画会

① 2023年5月8日



シェイクスピアの戯曲『マクベス』を日本の戦国時代に置き換えた作品で、原作の世界観に能の様式美を取入れた。ラストに三船の演じる主人公が無数の矢を浴びるシーンで知られる。シェイクスピアの映画化作品で優れた作品の1つとして評価されている。

② 2023年8月7日



1942年のアメリカ恋愛映画。出演はロナルド・コールマン、グリア・ガースンなど。第一次大戦の後遺症で記憶を失った、仮の名をスミスという男。彼は入院先を逃げ出してさまよっているところを、踊り子ポーラに助けられた。二人は結婚し田舎での生活で子供ももうけ安穏と暮らす。出張先で転倒したスミスは、レイナーという実業家の息子であった喪失以前の記憶を取り戻してしまう……

あとがき

昭和は、終戦まで、戦後の貧しかった時代、高度成長時代、そして失われた三十年とに分けることができます。私達の多くの方は、戦後の時代を生きてきました。

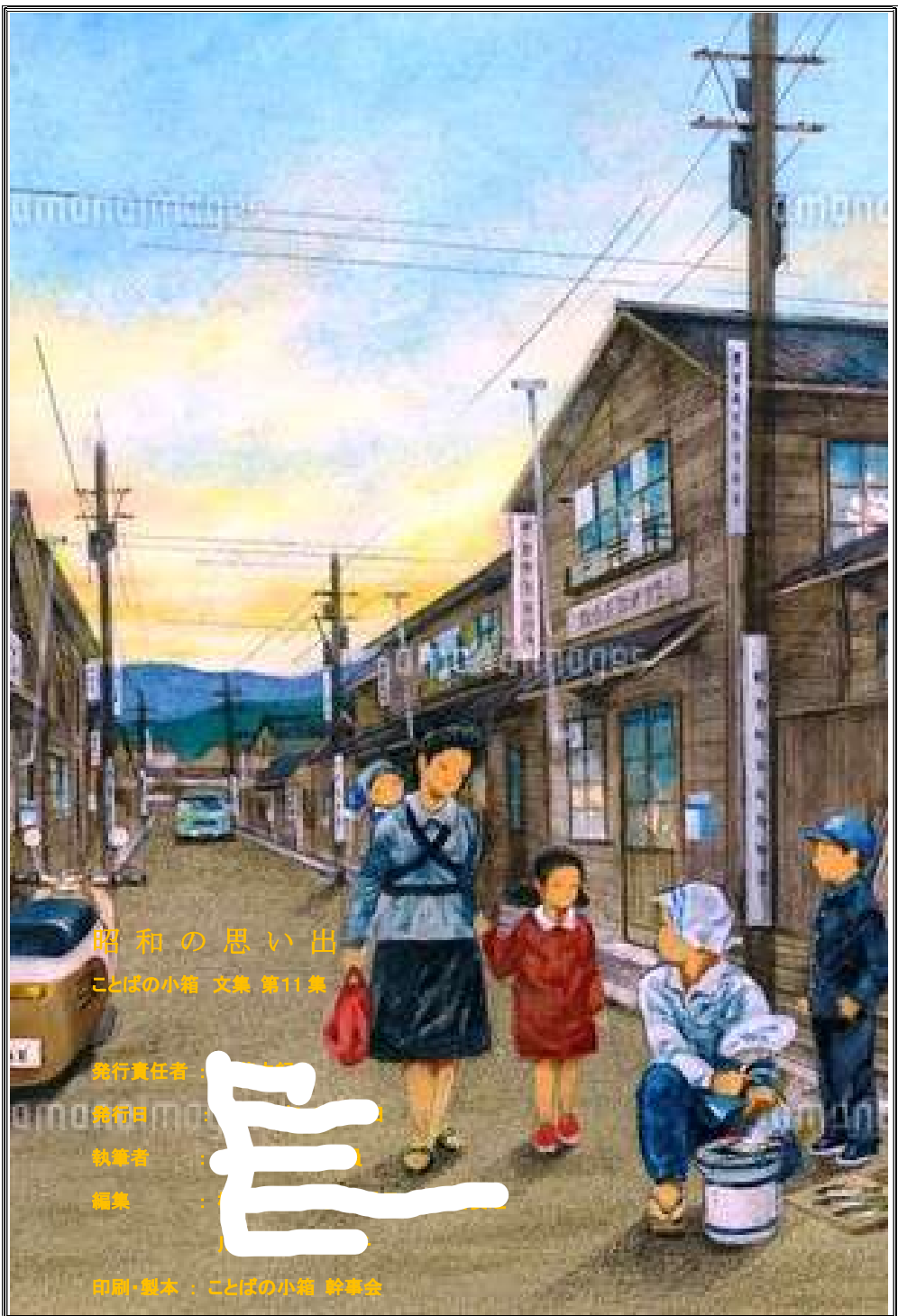
今、その時代を振り返り「昭和の思い出」を文集にまとめてみました。会員の皆さん夫々の体験を語っていただき、貴重な経験に感激しました。

私たちの生きてきた時代は、働いたらそれなりに希望が持てる時代でした。洗濯機も買えた、テレビも、そして冷蔵庫が家庭に入ってきました。いわゆる三種の神器と呼ばれます。大変便利になり、豊かになったと実感しました。

これからも、こんな希望がある先の明るい、時代が来てほしいものです。

令和六年二月吉日

文集編集委員



昭和の思い出

ことばの小箱 文集 第11集

発行責任者 :

発行日 :

執筆者 :

編集 :

モ

印刷・製本 : ことばの小箱 幹事会